

米国大統領選 8 民主党全国党大会は成功、オバマ大統領がリード広げる

民主党全国党大会が9月4日から6日までの3日間開催され、6日にオバマ大統領が指名受諾演説を行った。既に多くのメディアが報じているように、党大会はクリントン元大統領の過去最高とも言われる演説も効いて、大いに盛り上がった。オバマ大統領の再選を目指して挙党態勢を確立、共和党に比べて見劣りするといわれた選挙への熱意も取り戻した感がある。ロムニー候補の支持率には共和党全国党大会の効果はほとんど表れなかったが、オバマ大統領には明確に党大会効果が表れた。主要世論調査によれば、党大会前にはオバマ大統領はロムニー候補と支持率が互角になっていたが、党大会の途中から差が開き始めた。党大会翌日の7日に発表された8月の雇用統計では回復の遅れが明らかになったが、オバマ大統領の支持率には影響はあまりなく、9月11日現在ではオバマ大統領がロムニー候補に対して3%ポイント超のリードとなっている。以下、民主党全国党大会から現在までの選挙戦を振り返り、当面の展望を考えてみた。

1. 雇用停滞でも、党大会効果の出たオバマ大統領の支持率は逆に上昇

9月7日朝に発表された8月の雇用統計は、就業者が前月比9.6万人増と市場予想(12.5万人増)を大きく下回った。失業率も就業希望者の減少の結果としての8.1%への低下であり、雇用の改善の遅れが改めて示された。

前日6日夜に民主党全国党大会で指名受諾演説¹を行ったオバマ大統領は、既にこの結果を知っていた模様であり、演説のトーンを慎重に抑えていた。それでも景気と雇用が最大の争点である今回の大統領選の、投票日まで2カ月を切った時点での雇用停滞という現実にはオバマ大統領にとって逆風であることは確かである。雇用統計の発表を受けてロムニー候補は「国民的悲劇だ」とオバマ大統領を攻撃し、「民主党は(党大会という)宴から一夜明けて二日酔いになった」と皮肉ってみせた。

しかし、深刻な頭痛に襲われたのはロムニー候補と共和党の方だった。オバマ大統領の支持率は雇用停滞という結果に大した影響は受けず、党大会の効果がしっかりと表れ、9月12日現在のリアル・クリア・ポリティクス社の主要世論調査の平均²ではロムニー候補との差が3.6%ポイント強に広がっている。党大会後に行われたCNN/ORCの世論調査³では、支持率の差が6%ポイントに達するなど、党大会効果が不発に終わったロムニー候補との勢いの差は明確である。

2. クリントン元大統領の大演説、成功した民主党の全国党大会

実際、民主党全国党大会は3日間を通じて大いに盛り上がった。初日のミシェル・オバマ大統領夫人の演説⁴は賞賛を浴び、二日目に登壇したクリントン元大統領は予定外の50分にわたる大演説⁵を行い、会場を熱狂させた。実際、元大統領の演説はオバマ大統領を褒め称える一方で、共和党と

¹ DNC 2012: Obama's speech to the Democratic National Convention (Full transcript)
http://www.washingtonpost.com/politics/dnc-2012-obamas-speech-to-the-democratic-national-convention-full-transcript/2012/09/06/ed78167c-f87b-11e1-a073-78d05495927c_story.html

² <http://www.realclearpolitics.com/>

³ CNN/Opinion Research Poll
<http://i2.cdn.turner.com/cnn/2012/images/09/10/rel10a.pdf>

⁴ Michelle Obama's speech at the Democratic National Convention (Full text)
<http://www.washingtonpost.com/blogs/election-2012/wp/2012/09/04/dnc-2012-michelle-obamas-speech-at-the-democratic-national-convention-full-text/>

⁵ DNC 2012: Bill Clinton's speech at the Democratic National Convention (Full transcript)
http://www.washingtonpost.com/politics/dnc-2012-bill-clintons-speech-at-the-democratic-national-convention-excerpt/2012/09/05/f208865e-f7a4-11e1-8253-3f495ae70650_story.html

ロムニー・ライアン両候補をこき下ろし、ロムニー候補らが無視した金融危機の現実や各種データを随所に盛り込んでロムニー候補らの「嘘」を分かりやすく暴くなど、非常に説得力があった。クリントン元大統領にとっても史上最高の出来だろうと語るメディアも多く、筆者もそう思った。ちなみにクリントン元大統領の最近の好感度は66%（12年7月）、93年の大統領就任時と同じく上回る過去最高であり、オバマ大統領よりも高い。前回の大統領選では、オバマ大統領が予備選挙でクリントン元大統領の夫人のヒラリー・クリントン国務長官と激しく争い、オバマ大統領とクリントン元大統領の間には本選挙になってもしこりが残ったといわれた。しかし今回は、クリントン元大統領は全面的にオバマ大統領を支援する姿勢であり、今後の選挙戦においてオバマ大統領と民主党にとって、強力な味方になりそうである。

党大会は、このクリントン元大統領の最高のパフォーマンスで党全体の大統領選への熱意が上がって挙党態勢を確認できた感があり、3日目の最後のオバマ大統領の演説は安全運転に徹するだけでよかった。演説自体は、二期目のビジョンや目標、具体的な政策を示さなかったこともあり、メディアや専門家の評価はよくはない。世論調査もクリントン元大統領の演説の方がよかったと声が多数であった。視聴した筆者も08年の指名受諾演説に比べれば、明らかに盛り上がり欠き、平易な内容であると思った。印象に残った言葉も、「私は候補者ではなく、（現職の）大統領なのだ」と言い切ったところぐらいであった。

3. 党大会の評価では民主党が共和党に圧勝

それでもクリントン元大統領の演説で生じた党大会の熱意をオバマ大統領が盛り下げてしまったという感はない。それだけ、民主党全国党大会は万全に準備され、重要な登壇者がベストのパフォーマンスをしたということであり、締めくくりは安全運転でよかったということなのであろう。共和党の党大会が、終わってみれば俳優・監督のクリント・イーストウッド氏の落語のような演説⁶しか多くの視聴者の記憶に残っていないという結果と比べれば、その差は大きい。それだけでなく、共和党の登壇者は自らのアピールに力を入れがちだったのに比べて、民主党の登壇者はオバマ大統領の支持を強く前面に出していたとの評価もある。民主党は、クリントン元大統領以外は党大会委員会による事前の演説原稿のチェックもあったといわれ、準備が徹底していた。最高の演説をしたクリントン元大統領とロムニー陣営がビデオ出演にとどめるしかなかった不人気のブッシュ前大統領の現在の差もまた大きかった。このような差が積み重なって、総合評価として党大会は民主党が共和党に圧勝したのであり、それがオバマ大統領とロムニー候補の支持率への党大会候補の有無に明確に表れているのである。

4. 少なくとも第一回討論会まではオバマ大統領の優勢が続きそう

オバマ大統領に党大会でついたモメンタムには、雇用の緩慢な回復という逆風を跳ね返す力が十分にあった。もちろん今後、党大会効果は徐々に消えていく可能性は高い。オバマ大統領がこれまで二期目に何をしたいのかを十分に有権者に語っていないことも、今後の選挙戦では響いてくる可能背もある。

だが、そうしたオバマ大統領の懸念材料がどうしてもよくなるほど、ロムニー陣営が冴えない。今週のロムニー・ライアン候補の演説の内容をみても、劣勢になり具体的な政策を示していないとい

⁶ Transcript of Clint Eastwood speech at RNC

<http://www.foxnews.com/politics/2012/08/30/transcript-clint-eastwood-speech-at-rnc/>

Clint Eastwood addresses the 2012 Republican National Convention.

<http://www.youtube.com/watch?v=yogKdWY692k&feature=plcp>

上記は共和党全国党大会のYoutube公式チャンネル。同チャンネル上の動画の再生数では、イーストウッド氏の演説が唯一200万回を超え、ロムニー候補の演説の約11倍になっている。

う欠点が明確になったにもかかわらず、相変わらずオバマ大統領を非難し、「あなたは4年前に比べて幸せですか」という決まり文句を語るだけで自らの具体的な政策を示さない選挙戦を続けている。オバマ大統領に失望しかけている有権者が、ロムニー大統領になれば2016年は今よりも幸せになれることを確信できる発言をロムニー候補に求めているといわれるにもかかわらずである。しかもオバマ大統領に対する攻撃も弱体化してきた印象がある。案の定、民主党の党大会において、クリントン元大統領を筆頭に多くの登壇者から、それまでのロムニー・ライアン候補による事実と異なるオバマ大統領に対する非難が、「嘘である」と集中砲火を浴びたのである。ライアン副大統領候補が主導した下院予算案におけるメディケア民営化策も攻撃対象になり、前回報告で懸念材料と指摘したロムニー候補の政策の空白を民主党に勝手に埋められる恐れが現実になった。民主党による攻撃は今週になって主要メディアが引き継ぎ、ロムニー・ライアン両候補はメディアの厳しい追及に対して防戦一方となっている。特にライアン候補に対する保守系以外のメディアによる「事実確認」の追及は激しくなり、それに対して同候補は明快な説明ができていない。

両党の党大会後の世論調査をみても、ロムニー候補はさすがに好感度がやや上がりはしたが、オバマ大統領との相対的な好感度の差は大きく、女性、非白人層、若年層の支持率の劣勢を挽回できていない。ロムニー陣営は、最近になって激戦区でロムニー候補個人をアピールするキャンペーンを増やし始めたが、一部の選挙専門家からは「そんなことは7,8月までにやっておくべきことだ」と批判されている。ロムニー陣営は今後、戦略を大きく見直さなければ10月の大統領候補討論会までにオバマ大統領につけられたリードを取り返すことは難しいのではないかと。

もちろん討論会自体は一般的に形勢を逆転できる機会であるし、それすら難しいほどロムニー候補が劣勢というわけではない。しかし、最初の討論会は10月3日であり、次の雇用統計の発表(10月5日)の前である。景気・雇用に関してオバマ大統領が今以上に不利になって一回目の討論会を迎える可能性は低い。しかも、ロムニー候補の大きな弱点である好感度の劣勢は、両候補が争う討論会では挽回しにくい性質を持っている。ロムニー候補が劣勢のまま第一回の討論会に臨むことになれば、討論の中で形成を逆転することはかなり難しい目標になると思われる。

以上/今村

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料の提供する情報の利用に関しては、すべて利用者の責任においてご判断ください。当資料に掲載されている情報は、現時点の丸紅米国会社ワシントン事務所長の見解に基づき作成されたものです。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当事務所は情報の正確性あるいは完全性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は、出所をご明記ください。